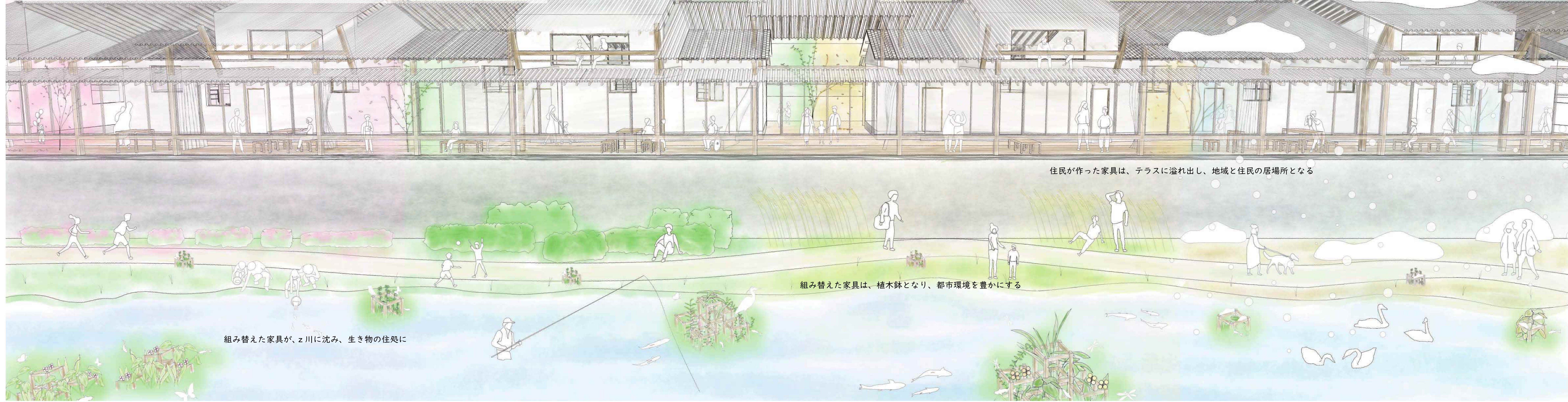


生き物が繋がる沈貨住宅

— 新たな木材活用サイクルと生き物の環境づくりの提案 —

秋田県では現在、森林資源の活用が謳われ、多くの建築物で木材の利活用が進められている。それは、一度に多くの木を利用できるが、一時的な木の消費だと感じる。そこで、木の持続的な活用方法として、「家具を作り、不要になれば、組み替えて新たな生き物の拠り所」となるサイクルを提案する。木の可変性には、木と建築だけではなく、環境、もの、人、地域とも相互に持続的な「繋がりを生む力」を秘めていると思う。この新たなサイクルが木と建築の枠を超えて様々な繋がりを生み出していく。



住民が作った家具は、テラスに溢れ出し、地域と住民の居場所となる

組み替えた家具は、植木鉢となり、都市環境を豊かにする

組み替えた家具が、z川に沈み、生き物の住処に

1 地方都市と生き物の関係・計画敷地

■秋田県の木材の利用の推進

木材を幅広く活用することにより、適切な森林整備が推進され、森林の持つ公益的機能の発揮、生産を通じて林業・木材産業での地域経済の活性化に繋がることが期待されている。



■家具のごみ問題

従来の賃貸住宅では、多くの家具が退去時に粗大ごみとなり、住民や環境を悩ませる問題の一つとなっている。



■生き物の生態環境

都市空間の中には、生き物たちの生態系があり、その繊細な生態環境は、人間の活動が大きく影響するため人が主体的に関わる必要がある。



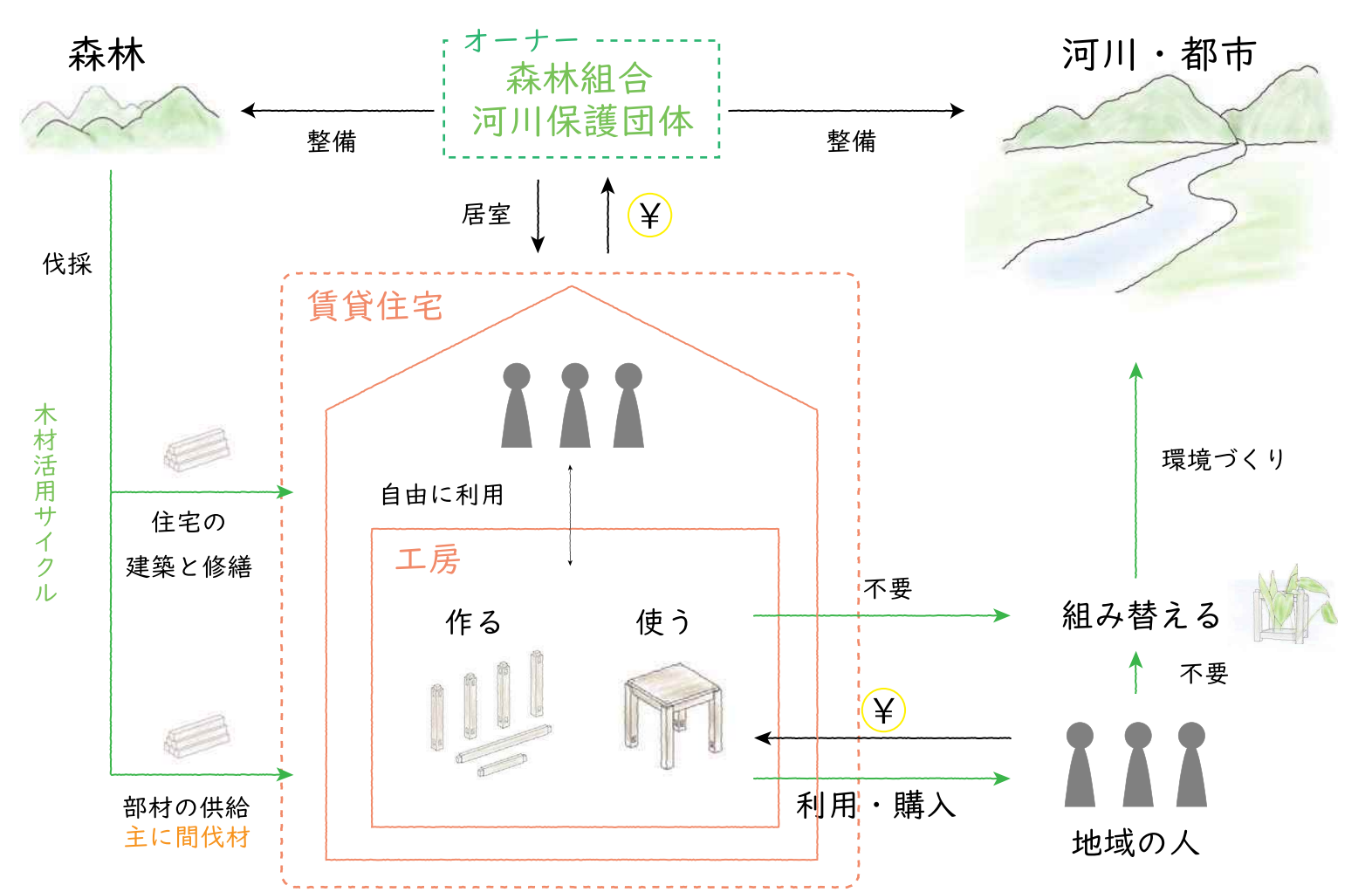
■計画敷地

秋田県秋田市旭川沿いの一角で、周りには古い街並みが残っている。川辺には遊歩道が伸び、人が行きかう場所である。また敷地の向かいには旭川が流れており、四季折々の風景が見られるが、現在は護岸に囲まれ活きた生き物の活動はあまり見られず寂しい。



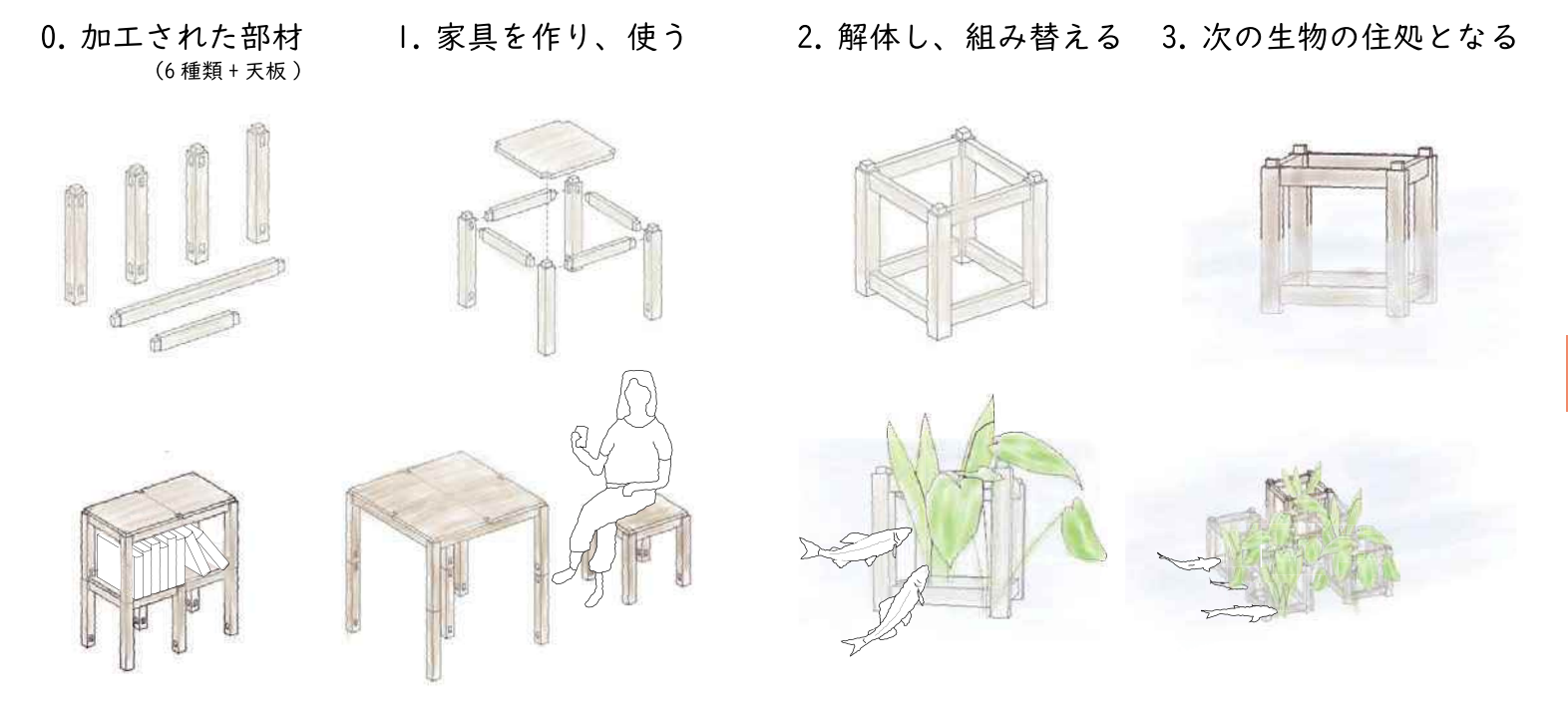
2 新しいサイクルを持つ賃貸住宅

このような背景から、家具が生き物たちの住処へと変わっていく新しいサイクルを持った賃貸住宅の提案をする。森林組合と河川保護団体をオーナーとし、森林組合を主体とすることで建物や家具に使う木材を持続的に供給する。また居住者は、住むために必要な家具を自由に作る仕組みとし、彼らが退去する時に必要なくなる家具たちは、組み替えられて生き物たちの住処へ変わっていく。これにより、生き物の生態環境と森林の整備が可能になり、森林の公益的機能の発揮、さらには面的な生態環境整備と持続的な木材利用にも繋がる。



3 生き物の住処になる家具

建物は主に集成材を用いることとするが、家具は間伐材などをうまく活用する。水中において木は腐りにくい特徴を生かし、住処は河川や都市空間に配置され活きた豊かな場所を作る。



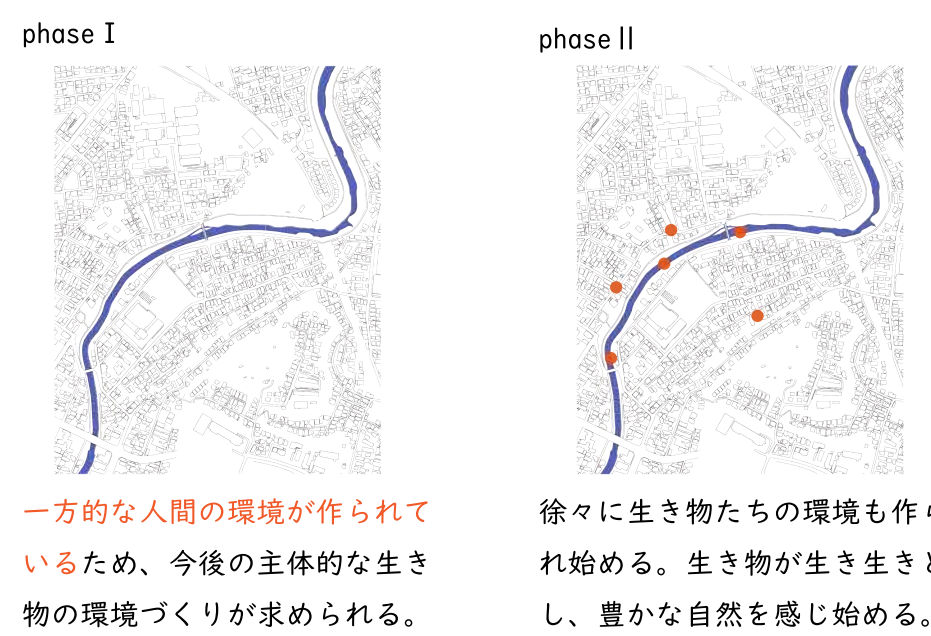
■家具を作る

ほぞ継ぎができる加工を施している6種類の部材と天板を用意する。木の加工性を活かし、自由に住民が家具を作り、生活を豊かに彩る。敷地には工房があり、そこで製作・修繕する。

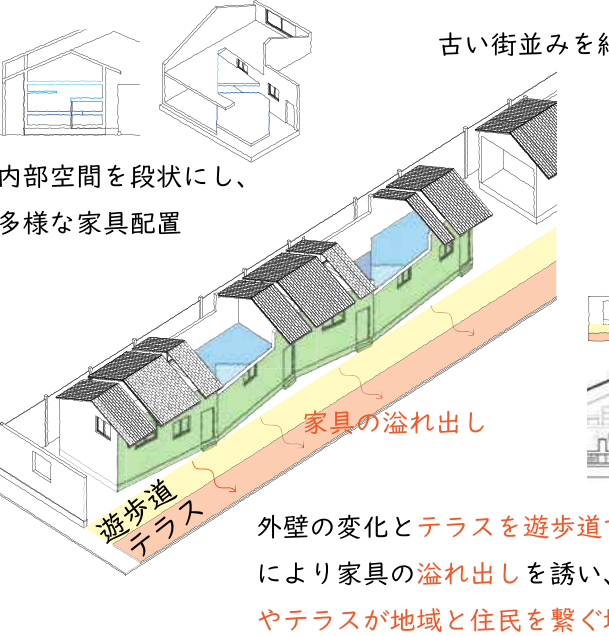
■家具を沈める

家具の躯体は組み替えられ、河川・都市環境を整備する装置へ生まれ変わる。隙間が生物の居場所、植木鉢、水制、さらに都市空間では、安らぎや憩いの場の創出の役割を担う。

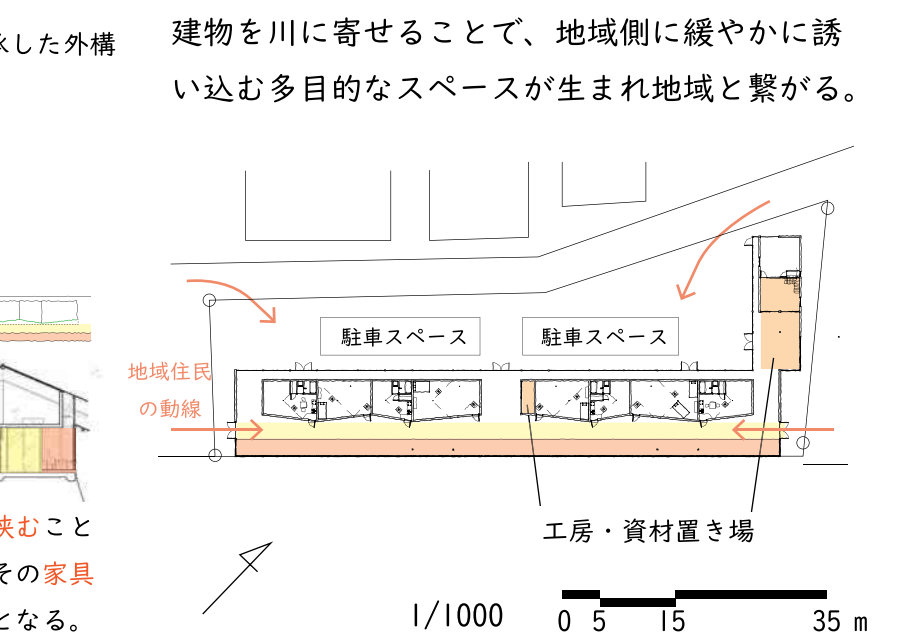
4 河川・都市環境の面的整備と遷移



5 家具と建築の繋がり



6 地域と繋がる全体計画



外壁の変化により、川に対して垂直方向に実行が生まれる。また、個の空間が、共通の空間が生まれるため、住民の生活と外での行動が変わるような場所となる。

半屋外の広い空間は家具を作る等の作業場ともなる。

スキップフロアにすることにより、室内に大きな空間を確保することができる。斜め方向のスラブの形状により川に対して水平方向に実行が生まれる。